

たま駅長、

あなたの訃報に接し、言いようのない驚きと悲しみの中、大変驚いております。

本日、ここに和歌山電鐵株式会社の故「社長代理ウルトラ駅長たま」の社葬がしめやかに執り行われるにあたり、謹んで哀悼の辞を捧げさせていただきます。

あなたの愛くるしい表情は日本のみならず海外の人をも惹きつけるものがありました。

平成二十五年には、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを全国に伝え、一人でも多くの人に検診を受けていただくとうと「紀の川市ピンクリボンPR大使」になっていただき、改めて衷心より感謝を申し上げる次第です。

今年の四月二十九日の十六歳の誕生日、人という八十歳の「傘寿」のときに、不老長寿の象徴である紀の川市の特産品である「桃」の苗木をお贈りし、長寿を願い、

これかもさらに活躍が期待される矢先、逝ってしまったのならなかったのでしょうか。誠に惜しみても余りある痛恨の極みであります。

再びあなたと相まみえることは叶いませんが、あなたの幾多の功績は、永久に私たちの胸に生き、長く称えられることでありましょう。

あなたは、紀の川市の発展のために尽力され、多大な功績をあげられ、地方鉄道の希望の星となりました。

これからは空から私たちを見守ってください。

たま駅長、

心名残ではございますが、これでお別れいたします。

お疲れさまでした。どうか安らかに眠ってください。

ここに謹んで哀悼の意を表し、弔辞といたします。

平成二十七年六月二十八日

紀の川市長 中村 慎司